

町指定有形文化財



もくぞうしょうかんぜおんぼさつぎぞう

●木造聖観世音菩薩座像

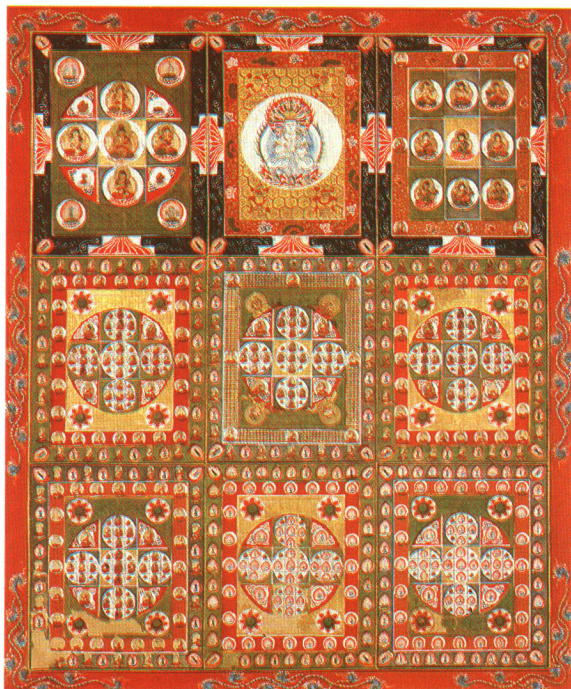
円福寺の伝承によると嘉祥元年（848）慈覚大師により開山され、御本尊仏として明和7年（1770）まで安置された。結跏趺座像で輪光背いっばいに高く宝髻を結び、その背に8つの蓮弁があり蓮弁の内側に菊の花片が32配されているのが特徴である。漆箔仕上げで鎌倉～南北朝時代の作と思われる。像高87cm



もくはんむりょうぎぎょう

●木版無量義経

寛永19年（1642）若松鶴ヶ城郭内にあった延寿寺第19世豪仙が円福寺に寄進された木版刷の経巻で天台密教法華経最初のお経として「開経」と呼ばれ暗闇の世界（迷）から光明の世界（浄土）に変ずる相を現わす経文といわれる。



しほんちゃくしよくこんごうかいまんだら

●紙本着色金剛界曼荼羅

九会曼荼羅と呼び円と方形で組合せ、円は仏の温和と慈悲を表わし方形は堅い智を表わし9つの区ぎりをつけ智拳印相の大日如来を中心に諸仏を配してある。



しほんちゃくしよくたいぞうかいまんだら

●紙本着色胎蔵界曼荼羅

元和元年（1615）に画かれ寛永19年（1643）延寿寺豪仙が円福寺に寄進した絵画である。蓮華の種子に法界定印相の大日如来に諸仏を配したもので理と悲を説く仏の組織図でもある。金剛界曼荼羅と対になる絵画である。